

语言普通吗？

IS LANGUAGE ORDINARY?

Kai-Chee Lam (林凯祺)

Centre for Language Studies, Universiti Malaysia Sarawak
kclam@cls.unimas.my

Abstract

This article attempts to explore the ordinariness of language by first introducing how ordinary a language could be, and in turn, how unordinary a language could be. Taking varieties of Mandarin spoken in Malaysia and Beijing as examples, the article then tries to illustrate further the points being put forward. Concluding the article is an explanation of “shequci”, a well-known concept in Chinese sociolinguistics as well as one of the components which contribute to the un-ordinariness of language.

Keywords: Mandarin language, un-ordinary language, sociolinguistics

语言这东西，既普通又不普通。说语言普通，因为不论是有声形式（如交谈、嬉笑怒骂）或无声形式（如肢体语言、网上交流），人们天天都在自觉与不自觉中使用着语言。没有人会否认语言是无所不在的事实。在这点上，语言简直就是再平凡再普通不过的东西。

不过，我们同时必须承认，语言也是不普通的。在一个人自称是某一言语社群（**speech community**）的一员之前，他必须具备能使用该社群主要语言的能力。当然，这仅是个泛的概念，因为间中涉及了听、说、读、写四种语言能力，其中又以听和说为主要关键。就马来西亚的情况而言，仅仅要把本族语学好学精，除了上本族语学校、大量阅读之外，还须具备充裕的现实语言环境，再有个人积极态度等因素的配合。当一个人具备了上述条件，他才能在属于自己的言语社群中立足。有趣的是，如果把同一个人带到另一个言语社群中，即便该言语社群和这个人说着同样的语言，但由于地域、文化、语用习惯等的不同，双方很快很能察觉到彼此的语言存在着或大或小的差异。

所以说，语言是不普通的。语言的不普通，成就了语言研究的价值。

上面提到，即便说着同样语言，但来自不同言语社群者很快就知道他们之间是同中有异的。我想针对这点，分享一些自己的切身经历。

最近我到北京自助旅行，也因此有机会亲身接触当地的市井语言。当地人喜欢在听到别人对自己说“谢谢”后，以“没事（儿）”回复。在马来西亚，一般上和“谢谢”对应的回复不外是“不客气”或“不用谢”。至于“没事”这种回复形式，据我所知是当说话双方都用福建话（闽南语）交谈才会用上的字眼。如此说来，难道在北京没人说“不客气”或“不用谢”吗？也不是。只是相对而言，“没事（儿）”更为当地人作地道说法而大量使用。

在下巴士前或在较拥挤的通道上，如果想请人让出一条路给自己走过去，你会怎么说？在马来西亚常听到的大概就是“借过（一下）”“让一下”或直接套用英语

“excuse me”。在北京，更常听到的是“下车吗？”（如果在公交²上的话）或格外客气的“劳驾”。意指相同，说法却不同。这就是为什么一开口说话，人们就知道彼此是不是“同一国”的人。其他例子还有马来西亚华人习惯说的“转左/右”，在北京是说“左/右拐”；我们说“杯面”，北京的说法是“方便面”；我们说的“行李寄舱”就是他们说的“托运”等。

在京期间出现一段小插曲。我们到麦当劳用餐。弟弟的汽水喝完了，很自然地到前台（我们习惯叫的“counter”）要求“refill”。见到服务生一时反应不过来，弟弟改口说“加水”，随即再改口“添水”。虽然最后让弟弟如愿以偿，但是我们后知后觉地发现弟弟身边的水箱旁正写着大大的两个字：“续杯”。

比较有趣的是，到北京之前我曾接触过这么一个说法：马来西亚人习惯说的“打包（食物）”在中国是“打包（尸体）”的意思。因此在北京用餐后吃不完想“打包”时，我朝招待员招招手，还在想千万别把“打包”说出口时，对方居然开口先问“打包吗？”后来返马查阅词典，才发现“打包（食物）”的用法是没错的³。

上面说的种种，其实就是汉语社会语言学研究的其中一个现象，统称为“社区词”（田小琳，2006）。顾名思义，其意思为在某特定区域流行使用的词语，所反映的是当地的社会生活。汉语⁴虽然是全世界华人的共同语，但是由于地理、历史、风土人情，加上早期缺乏异地语言交流等因素，在不一样的地方，同一件事物就有可能被当地汉语使用者冠上不同称谓，造成各地汉语存有差异性。所幸的是，全球华语圈内有九成的词语是相同的（汤志祥，2004），社区词的存在并不会给汉语使用者在沟通上造成太大的困难，反之还在某种程度上丰富了汉语的表达能力。

所以，你且说说看，语言是普通还是不普通？

参考文献

- 汤志祥. (2005). 论华语区域特有词语. *语言文字应用*, 2, 40-48.
田小琳. (2006). *田小琳语言学论文集*. 吉林: 东北师范大学出版社.

² 即我们说的“巴士”。

³ 打包：用纸、布、麻袋、稻草等包装物品：~机 | ~装箱。（《最新汉语大词典（世纪版）》，联营出版社有限公司出版，2003，215页）

⁴ “汉语”本身就是一个社区词。“汉语”或“普通话”是在中国大陆的叫法。地点换成了台湾，它就成了“国语”，香港人称之为“中文”。而在马新两地，汉语就更广泛地称为“华语”。

外国語習得に向けて

TOWARDS ACQUIRING A FOREIGN LANGUAGE

Rokiah Pae (ロキア パイー)

Centre for Language Studies, Universiti Malaysia Sarawak
prokiah@cls.unimas.my

Abstract

Learning another language other than our mother tongue has become a necessity in today's globalized world. More and more people are engaged in learning new languages due to various reasons, which range from interest in the culture to academic purposes. In this short article the author shares some suggestions on matters that need to be considered to make the learning experience both enjoyable and meaningful for learners with different needs.

Keywords: foreign language learning, learning needs.

国際化に伴い、母語だけでは間に合わず、他の言語への習得が求められるようになってきた。このような時代に適応するためには、外国語学習をし始める学習者が年々増加する傾向にある。就職、勉学、文化への興味など多種多様なニーズから始まった外国語学習に対応できるような学習内容または学習のあり方が求められている中、どこまで学習した内容を実際に身につけて、使いこなせるかという学習の習得度が問われている。

学習には誤りはつき物であり、それを通して、何かを習得していく。生まれたばかりの赤ちゃんは歩けないがある時期になったら歩けるようになる。しかし、「歩く」という行為ができるようになるまでには、時間はかかり、そこに至るには、「四つんばい」「ヨチヨチ歩き」などのようないくつかのプロセスを経なければならぬ。最初は足は弱いから何かにつかまえて、練習するが、だんだん力が付いてきて、やっと 2 本の足でしっかりと立つことができるようになる。練習中には転ぶことの繰り返しが起こるがこれは赤ちゃんにとっては大事なプロセスであり、通らなければならない道である。このようなことはすべての学びの場には適用する。新しいことを学ぶとき、慣れるまでには時間はかかるが、それでも続けていくと、コツがつかめて、段々と、早く、上手くできるようになる。

語学学習においても例外ではない。母語の場合はほとんどは自然の形で習得していくが、外国語の場合の多くは学校教育を通して学習していく。しかし、学習しても、身につかなくて、使いこなせないという例は大いにあることは確かである。つまり、学習したことは習得されていないのである。習得につながらない理由は多種多様で、原因究明に関してはさまざまな研究がなされている。その中のひとつは習得度に重きを置いていないところにあると考えられる。では、どのようにすれば、

一定の学習期間で目標言語への習得度が伸ばせるのか。

「習得度重視」ということを考える際、以下のことが考えられる。

■ **無駄な作業をできるだけ省くこと**

外国語学習において、暗記は欠かせないものであるが、情報ツールが発達した状況では、暗記の必要性はかなり減る。暗記を求めるのは、本当に暗記しなければならない内容だけに限る。そのためにも、暗記の必要性を減らす環境を整備することが重要になってくる。

■ **学習者のニーズに対応できる学習のしかた**

あまり興味のない項目では学習はとどまる可能性が高い。持続させるためには、学習者に合った学習の仕方を提供することが考えられる。音楽が好きな学習者には、音楽を聞かせ、歌詞を記憶させること、または、漫画が好きな学習者には漫画を与え、読ませたり書かせたりすることなど、適切に対応する。学習者に合った学習刺激を与えることで学習者が持っている能力を最大限に発揮でき、能力は伸ばせるのである。

■ **学習者の達成感の考慮**

新しいことができるようになることは嬉しいことである。特に困難が伴うものに関してはなおさらのことである。学習者に合ったやり方はもちろんのことだが、学習する際は学習者に赤ちゃんのような「転ぶ経験」を与えることは場合によっては必要である。

■ **サポートの充実**

誤りがつき物であるため、フィードバックが絶対必要である。どのようなフィードバックが適切か、どのようにフィードバックするか、フィードバックのあり方によって、結果に影響を与えるため、大いに考慮する必要がある。

習得に向けての学習方法は数多くあるが、学びは面白いということを学習者に感じさせることで学習の動機付けの維持につながる。